



「みんなの大学」

楠葉同窓会会長 江口 洋一

令和4年度公開講座（オンライン）「みんなの大学」の案内文が経済学部より送られてきた。昭和48年～51年の卒業生に対して募集案内があったもので、たまたま私もその対象になっており、参加することにした。

経済学部社会課題研究センターの池田氏に話を聞いた。

社会貢献の一環として、生涯学習に対する地域の方々の多様なニーズに応えるために計画され、商店街空店舗を活用した「ゆらーと館」での公開講座に始まる（確か、長先生が主宰されていた）。その後「まちかど大学」を経て、2008年から「みんなの大学」として実施されている。地域の方々を中心に大学での講義・学生との交流・実地研修・留学生との交流を含む内容で例年180名程度の参加があったそうだ。

しかし2020年のコロナ禍対応で規模を縮小してオンラインでの実施となり、2020年は23人、21年は28人の参加であった。

話を伺い同窓生にも広くPRするために、同窓会のHPに公開講座（オンライン）の募集案内を掲載するとともに、70歳前後の人々には直接DMを発送したいとのことで、昭和48年～51年の卒業生の住所データを提供するなどの協力をした。

今回は、これまでの受講経験者や県人会などにもDMを発送されたが、卒業生からは8人（兵庫県より1名）、経験者から22人、県人会から1人（ポリビア）の合計31人となったようだ。

講義内容は経済学部教授と外部講師の講義の中から12講義（後期は8講義）を選択できることになっており、興味のある講義が選択できる。

オンラインによって外部講師にはカナダ・スリランカ・立命館大学教授などもおられる。そのほかに、佐大落語研究会OB笑菱会「落語の笑いで佐賀を元気に!」、生け花教授「花がある暮らしと生活そして伝統」など面白そうな講義も含まれている。

オンラインであるために、大学に出かけての刺激や、若い学生達との交流はできないが、週に2～3日、朝10時から1時間半、自宅でPCの前に座るだけで知的好奇心が満たされる。

その他に、大学では「授業開放」として、学生が学んでいる正規の科目の一部を学生とともに受講できる機会も提供されている。開放科目は全学部亘っており多種多様な科目が選択できることになっている。

また、「佐賀の歴史と文化」とテーマが絞られた公開講座も開催されている。例えば、「佐賀城下にあった幻の大名庭園—観願荘」「漢字より古い文字?—神代文字論争と佐賀—」等。

今後とも、より多くの同窓生が「学びなおし」に参加できる工夫を同窓会としても取り組んでいきたい。



対面授業の様子

令和4年度楠葉同窓会総会の書面決議について

楠葉同窓会会長 江口 洋一

コロナ禍にあっても変わらない佐賀の風景ですが、人口10万人当たりの県内コロナ感染者数はかなり多いとのデータもあります。

現況下においては本年度の総会も昨年同様書面決議をお願いせざるを得ませんでした。会員の皆さまには総会における議案についての概要説明をします。

議案(1) 令和3年度事業報告

(2) 決算報告

(概説) コロナ禍ではありましたが、在學生との交流会を Web 及び対面で実施しました。「公務員もいろいろ」のテーマで佐賀県庁・佐賀市役所・佐賀県警及び佐賀労働局・佐賀税務署・佐大事務局の就職後2～5年のOB・OGに協力してもらいました。

各支部の懇親会を伴う活動も全く開催されませんでしたので、結果的に約2,300千円の繰越となりました。

議案(3) 会費納入・動向調査の実施

(概説) 3年に1回実施しています会費納入の案内文について、「住所不明者の情報提供のお願い文を追加」「文理卒業生は終身会員として取り扱う」「終身会員への移行を促すため残会費を明記する」「終身会員及び入学後9年以内の会員には会費納入のお願いはしない」等の工夫を加えて実施します。

議案(4) 会計処理の適正化(会則の改正)

(概説) 全学及び各同窓会で統一した会計処理を行うことにし、収入の部は在學生(25,000円×人数)と卒業生(当期納入実績)に区分し、支出の部は同窓会館維持費(3,000円×人数)と佐大同窓会負担金(22,000円×50%×人数)を新たに表記するものです。

また、それに伴う会則の改正を行うものです。

議案(5) 令和4年度事業計画案

(6) 予算案

(概説) ウィズコロナの時代への移行が言及されています。できる限り通常の活動ができるように工夫をしていきたいと思っております。また、各地での支部会が実施されることを期待します。

追記 役員改選について

(退任) 長 安六 西村哲也

(後任) 中川哲也 (S47入・経済)

植田慎幸 (H1入・経営)

任期は前任者の残任期間 2023年3月末となります。特に長安六氏については半世紀以上に渡り同窓会活動に関わってきてもらっていました。近年は対馬での活動が主になり退任されることになりました。同氏の同窓会に対する貢献度は計り知れないものがあり、深く感謝申し上げます。

第11回ホームカミングデーの開催

(※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては変更があります。)

【期日】 令和4年11月5日(出) 【場所】 佐賀大学本庄キャンパス

【目的】 佐賀大学の卒業生に母校佐賀大学を訪問していただき、母校の現状を知り、恩師・学友との再会と交流を深め、今後の母校へのご理解とご支援をいただければ幸いです。

【対象】 卒業年等にかかわらず、すべての同窓生と本学の名誉教授

【内容】 大学の近況報告、講演、在校生によるアトラクションなど

※詳細は決定次第、佐賀大学校友会のホームページでお知らせします。

(URL <https://koyukai.admin.saga-u.ac.jp/>)

第10回佐賀大学ホームカミングデー(令和3年11月6日開催)の様子は、こちらからご覧ください。(URL <https://youtu.be/lvC881PGJxM>)

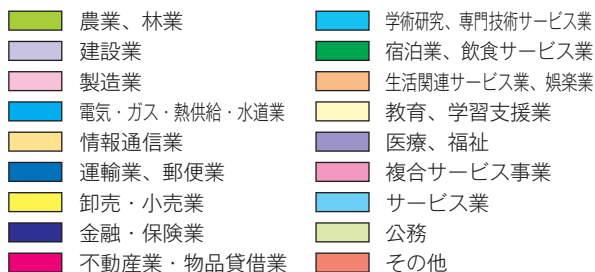
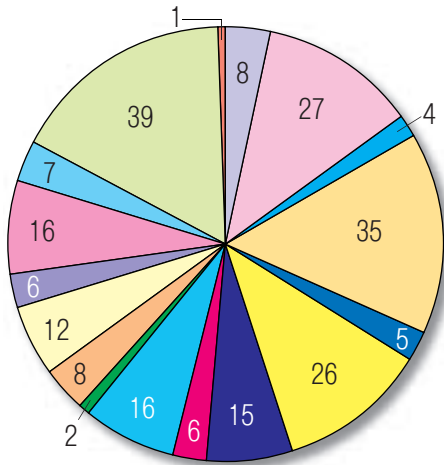
また、佐賀大学校友会において「同窓生へ贈る佐大正門の今」をテーマに、動画「佐賀大の歴史(正門編)」を制作しました。

ご高覧いただければ幸いです。(URL <https://youtu.be/3imC85A21Rg>)

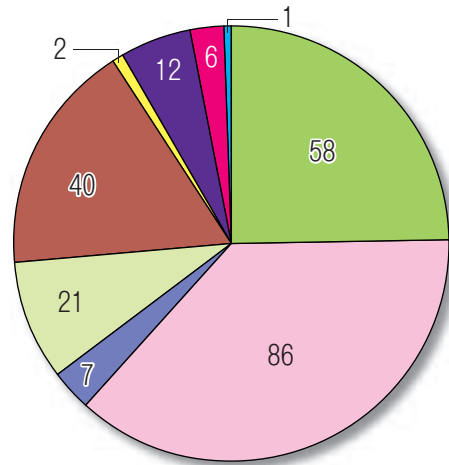


令和3年度 経済学部就職状況

産業分類別就職者



地域別就職者



経済学部就職委員長 中西 一

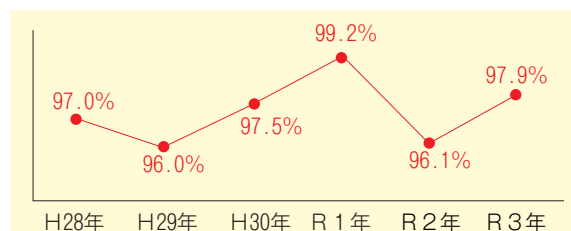
楠葉同窓会の皆様におかれましては、日頃からさまざまな形で本学部生へのご支援をいただいております。心より感謝申し上げます。

2022年度の就職活動につきましては、コロナ禍も2年目ということで、基本的には引き続きさまざまな制約の多い中での学生生活、就職活動が行われた年でありました。そのような中、2021年度一旦低下しておりました就職率も、97.9%と大幅に回復し、ここ5年間でも相対的に良い部類に入る就職率と言っていると思います。企業側もそうですが、学生側が混乱に適応し工夫、努力したことが大きいと思います。構成としては金融・保険業が減った一方で、製造業、情報・通信業の増加が見られます。これらが産業構造の変化の反映であるのかどうかは引き続き注視していきたいところです。

オンラインが多用される現在の就職活動は、面接のコストを下げ機会を拡大すると同時に、双方にとってのミスマッチのリスクも高めています。他方で近年インターンシップの普及があり、就職活動の実質前倒し化が進んでいることが知られています。もちろん今まで通りのあり方で採用される学生達も多くいます。企業や学生の対応も二分化が進んでいるという印象を強く持つ次第です。

このような情勢の下、同窓会の皆様との人的なつながりが、過去よりもより一層重要性を帯びてきていると思われます。楠葉同窓会の皆様には引き続き、本学部生への厚いご支援を賜るべく、心よりお願い申し上げます。

就職率の推移





教員の研究紹介

「変化する社会課題に挑み続けたい」

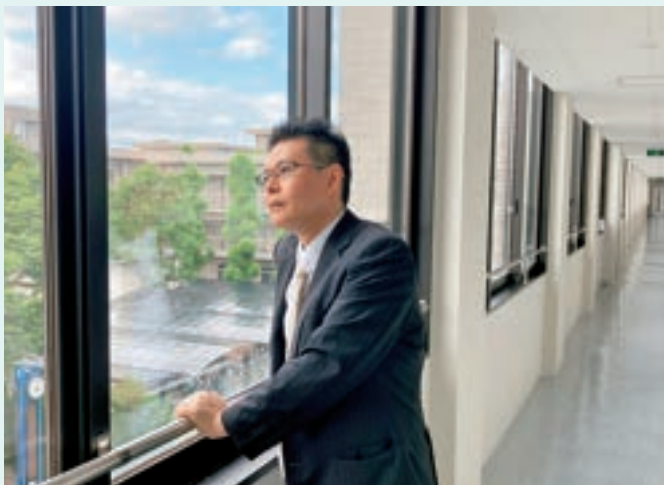
経済学部 教授 亀山 嘉大

コロナ禍も3年目を迎え、感染状況も落ち着いてきた。昨今、対面実施の授業が軸になっているが、この3年間、学会や研究会はオンライン実施が軸であったため、九州を離れることは少なかった。海外はもとより、東京や東北を含む東日本地域に赴くことなく年月が過ぎている。

2021年は、東日本大震災の発生から10年の節目であった。2021年10月に、Springerから*Spatial Economics for Building Back Better: The Japanese Experience*を刊行した。震災発生から1ヵ月強が過ぎた2011年4月末に、恩師である藤田昌久 京都大学名誉教授、兄弟子である神戸大学 浜口伸明教授とともに被災地の調査に入った。1週間に及ぶ現地滞在では、被災地を五感で感じることになる。例えば、気仙沼市の市街地には山側から入ったが、化学物質が焼けた臭いが漂っており、目も痛かった。海側に抜けると魚の腐臭に襲われた。前者は、備蓄していた石油の延焼に起因し、後者は、水産加工の倉庫や工場の崩壊に起因していた。この調査を皮切りに、半年～1年毎に1週間程度の現地調査を3人で続けてきた。本書は、一連の調査をもとにコロナ禍で議論したことを追加してまとめたものである。

本書では、全てのChapterで空間経済学を背景にした分析や考察を行った。従来、空間経済学では、規模の経済と輸送費の均衡が市場メカニズムで達成され、そこで集積が形成されることが解明されてきた。本書の新しい知見は、“人口減少”、“繰り返される自然災害”、“グローバル化のもとでの疫病による空間（世界）分断”といった経済成長期に想定していなかった3つのリスクを取り上げる意義を示したことである。なぜならば、市場メカニズムに基づく経済活動の東京への集中は、自然災害や空間分断の発生に際し、社会的費用を増加させるだけでなく、人間、ひいては国の多様性を損なう可能性を高めるからである。これに対抗していくためには、地方の天然資源の持続的な活用、企業や都市の生産性の向上、そのためのイノベーションを地域創生に繋げる必要があることを議論した。その一例を挙げると、業務や活動の内容に応じて効率的に働ける相手・場所・時間を選ぶことができるABW（Activity Based Working）という新しい働き方の導入に向けて、テレワークと通勤をどのように使い分けていくかということがある。

この例に限らないが、本書での議論をさらに深化させるために、今年度の重点課題として「テレワーク（在宅勤務）と都市機能」と「稼げる観光戦略の構築」の2つの研究に取り組んでいる。どちらの課題でも、データ分析に基づき、都市や企業や労働者の生産性を高めるための要因分析が必要になる。今年で50歳になったが、まだまだ学ぶことばかりで苦しくもあるが楽しくもある。自らの生産性を高める意味でも、分析スキルの向上を図りながら、少しでも質の良い論文を執筆できるように努めたい。



被災地で購入した写真集、並びに、刊行した書籍



『苦しくも成長できた研究室での活動』

経済学部 経済学科 4年 古賀 有紗 西村美友生 松本 愛理

こんにちは。経済学部経済学科4年の古賀・西村・松本と申します。今回は、私達が所属する亀山研究室でのゼミ活動についてご紹介します。

亀山研究室では、都市や地域に存在する現実的な課題について調査し、都市経済学への理解を深めています。3年次にはグループ研究があり、社会問題解決のために調査を行います。私達は、九州電力株式会社の協力のもと、女性活躍推進への意識や仕事のやりがいについてアンケート調査とデータ分析を行いました。分析結果は主催したシンポジウムで報告し、その後、最終報告書を書き上げて研究を終えました。

研究を振り返ると、本当に波瀾万丈な日々で、いつも3人で悩みながら行動していました。研究テーマが決まらず他グループに後れをとっていたこと、アンケート内容を期間ギリギリまで修正したこと、私達のミスで企業に迷惑をかけたこと、初めて回帰分析やパス解析を本格的に実施し、分析結果を得るのに夜遅くまで四苦八苦したこと、集客状況が悪く宣伝しまわったこと、等々書ききれない程の出来事がありました。今では全て笑い話ですが、当時は多くのトラブルで涙し、挫けそうでした。

そのような辛い状況下でも最後までやり遂げられたのは、3人全員が諦めず助け合いながら行動していたからです。自分の役割を果たしながらお互いに気を配り、グループのことを考え動いていました。お互いに努力している姿を見ていたので、落ち込んでも気持ちを奮い立たせ、前に進むことができました。シンポジウム前にはすべき事も多かったため、ほぼ寝食を共にしていましたが、愚痴をこぼしながらご飯を食べていたことも、仲を深める良い時間だったと感じています。

研究では、多くの企業の方々、亀山先生、研究室の卒業生、先輩や後輩に至るまで多くの方々にも助けられました。力を貸していただけることに感謝するとともに、協力や応援にこたえようと研究に励みました。私達は研究を通して、いかに周囲を巻き込むか、何を返せるのかを考える機会を得ました。就職活動や今後の仕事にも活かせる視点を養うことができたと感じています。

今回の研究は、私達にとって何物にも代えがたい経験となりました。成功失敗を含め多くの出来事がありましたが、全てが私達の成長に繋がったと感じています。亀山研究室に所属し、3人で研究を行うことができ本当に良かったと思います。卒業まで残りわずかですが、卒業論文やゼミ冊子の作成、後輩の育成など最後までゼミ活動に励みます。





大好きな小城市

昭和58年経済学部 経済学科入学 中尾 政幸

小城市役所 副市長

令和3年6月6日から小城市役所に勤務している中尾政幸と申します。

楠葉同窓会との関りでは、以前同窓会理事に就任していた際に、何度か各支部総会に参加させていただき、同窓会の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございます。

さて、小城市役所での勤務はもうすぐ1年を経過しようとしています。これまで様々な出来事があり、たくさんの経験をさせていただきました。

まず、令和3年8月の大雨災害では、令和元年の佐賀豪雨の再来となるような状況で大きな被害がありました。市内では、住宅、道路、河川、農業施設等で多数の被害が出ており、その他山間部でも土砂災害が発生しました。現在でも林道の不通箇所が残っており、災害復旧工事等に全力で取り組んでいます。

令和3年7月24日には、念願だった有明海沿岸道路の芦刈 IC から福富 IC までが開通となりました。六角川をまたいで芦刈町と白石町を結ぶルートには県内最大級の橋梁「六角川大橋」（全長982m）が架かり、移動時間の短縮や既存道路の緩和に繋がっています。

また、将来に向けた施策として、防災対策のための牛津川遊水池計画（水貯留容量：約250万 m^3 、面積：約90ha）の推進、多久小城地区新公立病院の整備、子どもを育て地域の活性化に繋がるフットボールセンターの建設等、市民の安全・安心、そして健康と住みやすさを重視したまちづくりを進めるため、大型プロジェクトに取り組んでいます。

現在特に苦心しているのが、ワクチン接種等の新型コロナウイルス感染症対策です。感染者が多数発生する中で、小学校や中学校の学習環境を守るため、ICTを活用しながら教育を維持していく必要があります。また、ウィズコロナを意識しながらのイベント等の行事の開催や地域経済の活性化も重要な課題であり、みんなで知恵を出しあって対応しています。

個人的には、休日に小城市内を散策して楽しんでいます。小城市内を歩いてみると、自然、景観、歴史、グルメ、お祭り、イベントなど一年を通して楽しめるスポットが満載です。

特に今回紹介したいのは、小城蒸留所の『OGIGIN “想”』です。天山山系に源を発する名水とシュガーロード食文化に育まれた地域の原材料を使って環境にやさしく美味しいお酒を造りたい、小城市、佐賀県、日本を元気にしたい、という「想い」を込めて作られたクラフトジンブランドです。市内には「天山酒造」「小柳酒造」「光荣菊酒造」の3つの酒蔵もあります。お酒が大好きな私にとって、元気の源です。微力な私ではありますが、お酒を堪能しながら小城市の発展に少しでも貢献したいと思っております。

会員の皆様におかれましても、小城市に観光に来ていただき、小城市の発展へ力添えをいただければと思います。応援よろしくお願ひします。そしてまた、お会いしましょう。





卒業生の近況報告



平成16年経済学部 経営法律学科入学 荒牧 明楽

OVER THE RAINBOW 代表



佐賀大学楠葉同窓会の皆さん、はじめまして。

LGBT を含む性の多様性を中心テーマに、学校や企業等で講演活動をしています。

卒業後は株式会社リクルートに入社し、その後広告業界・医療業界（MR）を経て現職に至ります。

私は出生時の体の性別と、自分が感じる性（性自認）が一致しないトランスジェンダー当事者です。

大学入学時は女の子の名前で、「女性」として入学手続きがされました。しかし性自認は「男性」でし

たので、服装や振る舞いは男性として生活をしていました。在学中に戸籍上の名前を変更し、カウンセリングに通い「性同一性障害」の診断書も取得しました。しかし当時はまだLGBTという言葉もなく、周囲にカミングアウト（自身のセクシュアルを伝えること）をしても理解されないこともありました。それでもゼミの羽石寛志先生はしっかり私と向き合ってください、理解と応援をしてくれました。リクルートを勧めてくれたのも羽石先生です。

自分の性を面接の時点で伝え、理解した上で男性として入社させてくれました。人事や上司にのみトランスジェンダーであることは伝えられ、あとは自分でカミングアウトの範囲を決めていました。素性を隠した状態で勤務しているため、常に周囲に目を配り、いつバレやしないかという緊張感の中生活をしていました。絶対に隠したいわけでもないのですが、受け入れてもらえるかの恐怖が拭えなかったのです。

2012年に手術をして男性の戸籍を手に入れ、これで自分らしく生きられると思っていたのに、待っていた現実は今と対して変わらずどこか背徳感を感じるものでした。

変わりたいのに変わることができない、自分らしく生きたいのに自分のままでいられない。そんな絶望の中で出会ったのが、現在学長も務めている認識技術・nTech^{エヌテック}でした。

「自分らしく」生きるためには、「自分」とは何かを明確に知ることが大切であり、「何をやりたいか」以上に「どんな自分になりたいか」が大切であることを痛感しました。

そして2018年にトランスジェンダーであることを隠さない生き方を決断し、独立。

詳細は2022年3月に出版した『トランスジェンダーの私が悟るまで』に赤裸々に綴っていますので、ご一読頂けると嬉しいです。

誰もが自分らしさを発揮して、違いを生かし合える尊厳社会をみんなであつくりたい♪





ハンバーグレストラン

「ZOO」



今回は昭和59年から大学の南、バイパス沿いにオープン以来、多くのお客さんにおいしい料理を提供されてきたハンバーグレストラン ZOOを紹介させていただきます。昭和59年と言えば、私は学生番号が83Eなので2年生の時から卒業するまで、いつもハンバーグB定食（ハンバーグ＋白身魚フライ）を食べていた記憶がありますが、皆さんは如何でしょうか？

今回、久しぶりにランチタイムに伺いました。店内はカップルだけでなく、おひとりさまのビジネスマンからガテン系のお兄さんやママさんたちのグループ等で賑わっていました（週末ともなると、より多くのお客様がお見えに

なるとのこと）。入口に券売機が設置されていること以外は、当時の雰囲気のまま。ハンバーグ月見定食1,000円をいただきました。鉄板の上には自家製の合挽肉を使用した、あくまで肉が主役のボリューム満点のハンバーグ（目玉焼き付き）、スパゲティ。サラダ、みそ汁とライス大盛。大変おいしくいただけたのですが、おじさんには少し味付けが濃かったかなという感じでした。

オーナーの古川さんにお話を伺うと若干23歳でこのお店をオープン、当初はまだバイパスも全通しておらず、周りからは開店に厳しい声もあったそうですが、ずっと奥さんと二人三脚でお店を切り盛りされ、現在は息子さんも手伝っていらっしゃるそうです（昨年までは娘さんも）。また当初はいろんな料理をリーズナブルに皆さんに味わってほしくて、幾種類もの洋食料理を提供していたけれども、メニュー数が多いとスタッフが一人でも欠けるとお客さんに迷惑をかけるので、現在はメニューを減らしハンバーガー本に絞られたとのこと。

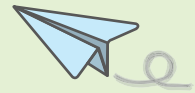
コロナ禍で新たにテイクアウトも始められましたが、盛況でお客様のリクエストに対応するのが難しくなったため、やむなく取り扱いを中止、しかし新たな取り組みも思案中とか。（配膳ロボットやタッチパネルの導入など合理化できるところは合理化しても、お客様に提供する料理の質は維持。客層もライフスタイルの変化に合わせて、従来の学生メインではなく社会人やファミリー、それとハンバーグ好きな高齢の方々にも店の料理を食べてもらいたい。コーヒーも復活させて提供したい などなど）

還暦を一つ超えられた古川オーナーのお店への想いは冷めることなく、鉄板の上のハンバーグのように熱せられて、ますます熱くなられているように感じました。

佐賀を離れて長い方も、佐賀へお越しの際には、古川オーナーの想いがこもったこのお店へ、ぜひ足をお運びください。

注：佐賀には、こちら以外にZOO（動物園）はありません！



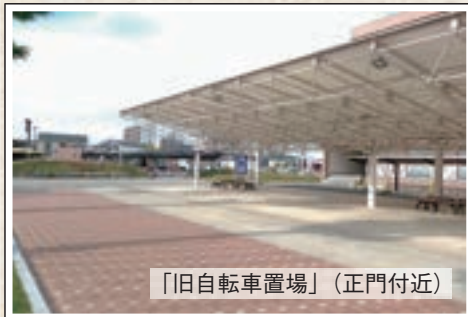


佐賀大学スケッチ

昭和58年経済学部 経済学科入学 松尾 和俊

卒業生の皆様は、卒業後に佐賀大学へ来られることがどれくらいあるのでしょうか？ 中には、卒業以来一度も訪れたことがない方々も少なくないかもしれません。

今回のトピックでは、特に大きく様変わりした大学の正門付近や経済学部近辺などを写真でご紹介させていただきます。学生の頃を思い出し、それぞれの記憶の中の風景とシンクロさせながらご覧いただければ、幸いです。



「旧自転車置場」(正門付近)

令和4年4月に自転車置場は撤去され憩いの広場にお昼にはキッチンカーも訪れ昼食を求める学生で賑わっています。



「産学連携プラザ」(旧学生会館)

令和3年10月佐賀大学の新たな知の拠点として新設。写真(下)は「インフォメーションルーム」内の様子。



「大講義室前」



「ガリレオ・ガリレイ像」

大講義室前には今は噴水はなくお洒落な広場となっています。正面左手には、芸術地域デザイン学部 徳安和博教授制作の「ガリレオ・ガリレイ像」が設置されています。



「佐賀大学生協」



佐賀大学の東側道路

片側一車線の頃は東側に居酒屋がひしめいていましたが、今は二車線となり当時の面影からは随分景色も変わりました。

【お知らせ】

佐賀大学美術館で師範学校、旧制佐高時代の パネルや古写真を展示

佐賀大学美術館では、佐賀大学の前身である佐賀県師範学校、佐賀県女子師範学校、佐賀青年師範学校、旧制佐賀高等学校、及び佐賀大学成立期の写真やパネルを「今は昔の佐賀大学」と題して6月28日から展示されています。

主な展示資料は、臼杵市教育委員会が所有している旧制佐賀高等学校関連の写真11点、及び佐賀大学同窓会の事務局である菱の実会館資料室にて保管されている古写真24点となります。

展示資料には、当時の授業風景や学生たち、不知火寮生が入寮歓迎で実施した登山の様子や商店街に集った街頭ストーム隊など、懐かしくもあり貴重な資料が多数展示されており、佐賀大学同窓会からも全面的な「協力」をさせていただきました。

懐かしさを感じる年代の皆様も、昔の佐賀大学の面影に初めて触れる方々もこの機会にぜひ一度、佐賀大学美術館へ足を運ばれてみてはいかがでしょうか？

「今は昔の佐賀大学」

場所：佐賀大学美術館 2F 歴史展示スペース

会期：令和4年6月28日(火)～8月10日(水)

※令和4年度中は、資料替えを行い会期が更新されます。

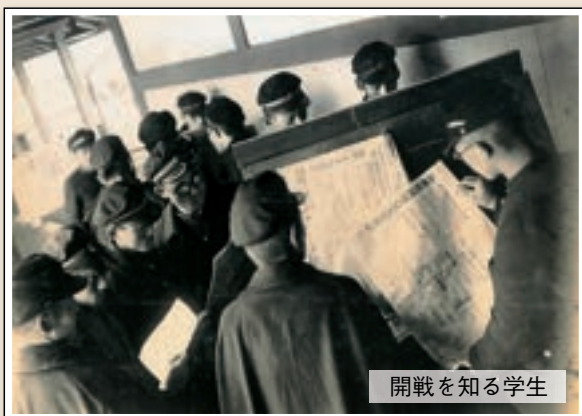
ご来館の際には佐賀大学美術館HPにてご確認ください。



不知火寮で巻頭言の発声練習



佐高最後の街頭ストーム



開戦を知る学生



佐賀の街を歩く学生

「たて糸（先輩・後輩）」と、「よこ糸（同級生）」 とで織りなす、佐大の人間模様



福岡支部会 支部長 昭和42年経済学部 入学 清村 克行

昭和42年4月、家から一番近く（歩いて10分）の佐賀大学へ無事現役で入学できた。経済学部の受験で5科目中、国語・数学・英語に、理科が「指定」の物理、社会がまた「指定」の世界史という難しい指定科目が幸いした。学籍番号67E134。定員100名。

「大学に行ったら、全国の人間と交流できる。多くの人と知り合いになろう」と思い、文科系サークルをいろいろと回り、内容を聞いて一番ところに響いた「社会心理学研究会」に入った。

「やはり大学は自由でいいところだな～」と思っていた6月、いきなり6人の寮生に対して『退学処分』が発表され、「不知火寮問題」で全学ストライキが始まった。何かおかしい？何で？何でと思っていたら、処分反対のデモ隊の先頭に立っていた。

学生時代は、1年時、「クラス闘争委員」、2年時、「学生自治会執行委員」、3年時、当時の経済学部学生で作る「経済研究会」会長、4年時、佐賀大で開催した「全九州大学ゼミナール連合会大会」実行委員長に就任と、今思えば、留年もせずよく卒業できたと思います。

昭和60年ころ、先輩の平岡茂富美先輩（昭和41年経済学部入学・平成29年10月没）から、福岡でも全学部の同

窓会を立ち上げようと言われ、名簿作り、幹事作りの準備に入りました。文理・経済学部卒で、九州電力、福岡県庁、福岡市役所、西日本鉄道、福岡銀行などに基点を置いて、あとは「士業」で転勤のない人を中心に「実行委員」を募り、代表には大御所の「大谷希幸先輩」（昭和24年文理学部入学・平成26年7月没）になってもらい、昭和62年12月「福岡地区全学同窓会」を立ち上げました。初めてだと思っていたら、6、7年前に2回ほど大谷先輩を中心に開催されていたと、後で聞きました。

基本的には「行ってみて、楽しかった」と思ってもらえる同窓会にしようと、それぞれの会合に変化をもたせました。「実行委員」（約15～20名ほど）をテーブルごとに配置して「盛上げ役」を作ったり、卒年別、居住地域別、学部別のテーブル分けをしたり、時には座席指定にして30分ごとに席替え（シャッフル）をして交流を促進させたり、抽選会やビンゴもしました。

ここ福岡では、文理学部・経済学部・教育学部・理工学部・農学部の卒業生の集まりで、毎回約100名前後の参加者があります。

大谷先輩の後を継ぎ、今は、2年ごとに開催しております。



事務局日誌 (楠葉同窓会)

令和3年度

4月1日 楠葉同窓会 会計監査/小会議室
 4月28日 楠葉同窓会 第1回役員会/多目的室
 4月30日 楠葉同窓会 会報部編集会議/小会議室
 5月25日 第1回経済学部協議会/経済学部長室
 5月29日 楠葉同窓会 総会(書面会議)
 6月1日 楠葉同窓会 会報部編集会議/小会議室
 6月4日 楠葉同窓会 交流会打合せ/小会議室
 7月25日 第2回経済学部協議会/経済学部長室
 8月3日 楠葉同窓会 第2回役員会打合せ/小会議室
 8月4日 楠葉同窓会 第2回役員会/多目的室
 8月27日 第3回経済学部協議会/経済学部長室
 8月30日 楠葉同窓会 交流会打合せ/小会議室
 8月31日 楠葉同窓会 名簿管理打合せ/小会議室
 10月4日 楠葉同窓会 交流会打合せ/小会議室

10月8日 楠葉同窓会 第3回役員会(書面会議)
 10月18日 楠葉同窓会 交流会準備
 10月20日 楠葉同窓会 交流会「公務員もいろいろ」
 講話 県庁・市役所・警察/経済学部4号館
 10月25日 楠葉同窓会 交流会準備
 10月27日 楠葉同窓会 交流会「公務員もいろいろ」
 講話 労働局・税務署・佐大/経済学部4号館
 11月17日 第4回経済学部協議会/経済学部長室
 12月1日 佐大同窓会 キャリアデザイン講座
 講師 佐賀銀行 宮崎慎也氏
 12月22日 佐大同窓会 キャリアデザイン講座
 講師 佐賀県庁 山口靖乃氏
 1月26日 楠葉同窓会 第4回役員会(書面会議)
 2月9日 経済学部との意見交換会 中止
 3月23日 学位記授与式(オンライン出席)

本部便り

会費納入のお願い

楠葉同窓会の運営経費は、会員の皆様からの会費によって賄われています。

会報「なんよう」(年1回7月発行)をご覧いただければ、県内外の同窓会活動を知っていただけるものと思っております。

身近に同窓生の集まり等もなく、参加する機会がない方にとって、会報やホームページが唯一の接点であり、情報発信を充実していくことで、同窓生とのつながりを維持しようと役員・事務局一同努めております。

しかし、近年、会費納入率が低下しており、同窓会運営も厳しくなっておりますので、どうか同窓会活動の趣旨をご理解いただき、お力添えをお願い申し上げます。

- 〈会費〉(1) 1年会員……2千円 (2) 10年会員……2万円
- (3) 終身会費……6万円(10年会費納入者は4万円)
- (4) 納入会費6万円に達した時点で終身会員とする。

〈納入手続き〉 会費納入の手続きは、右記のゆうちょ銀行、郵便局の「赤」の払込取扱票をご利用下さい。ご不明な点がございましたら、事務局(0952-23-1253)または、ホームページ「お問い合わせはこちら」からご連絡下さい。

住所変更などの報告

同窓会会員名簿は、会員と同窓会、会員と大学、会員相互を繋ぐ資料として、また、大学が必要とする広報・統計資料として活用しています。個人情報、同窓会の財産として同窓会事務局で厳重に保管・管理を行います。

変更があった場合は、氏名、入学年度、住所、電話番号、勤務先を明記して、下記事務局に、電話・FAX、メールまたは、同窓会ホームページ「お問い合わせはこちら」からお知らせ下さい。



編集後記

毎年、編集会議で頭を悩ませるのはネタ選びです。

同窓生が20代から70歳以上と幅広くなってくると各年代での体験や記憶は違ってきます。

それでも、どの年代にも読んでもらえるような紙面作りに頑張っています。

佐賀大学経済学部の昔と今を知って、懐かしく思い出してもらったり刺激を受けてもらったりして、ほんのちよっとでも日々の生活に潤いをもたらすことができれば。編集委員みんなの目標です。

江口 達也(経済・昭56入)

発行 佐賀大学楠葉同窓会
 佐賀市本庄町 佐賀大学菱の実会館内
 TEL 0952-23-1253 FAX 0952-25-5700
 E-mail: dousoukai@sadai.jp

発行者 江口 洋一(経済・昭44入)
 編集者 松尾 和俊(経済・昭58入)
 代表者